

## 夏場の大型扇風機の導入で繁殖和牛の受胎率アップ!!

暑熱環境が繁殖成績に悪影響を及ぼすことが問題となっている。そこで、大型扇風機の導入による暑熱対策が繁殖成績及び<sup>ちゆう</sup>腔温に与える効果を検討したところ、送風によって腔温は低く推移し、受胎率が向上した。

### 内容

黒毛和種繁殖雌牛25頭を暑熱対策（吊り下げ式）の大型扇風機による24時間送風、風速0.9～1.5m/sの有無（送風区：14頭、対照区：11頭）に分けて飼養し、暑熱期（6月下旬～9月中旬：92日間）における繁殖成績を調査した。また、発情を同期化（発情日を揃える）した個体に人工授精を実施した後、暑熱対策の有無（送風区：3頭、対照区：3頭）に分けて、温度計を腔内に留置し15分間隔で腔温をモニターした。試験期間中の牛舎内の気温及び湿度は1時間間隔で測定した。

試験期間中の牛舎内の気温及び湿度を図1に示す。試験期間中の牛舎内平均気温及び湿度はそれぞれ27.6℃、75.8%、最高気温は36.8℃であり、最高気温が35℃を超える日が16日あった。繁殖成績は、送風区の延頭数受胎率が対照区と比較して高い値を示した（表）。また、受胎した個体の空胎期間は送風区が対照区と比較して短かった。腔温については平均及び最高腔温とも送風区が対照区と比較して低く推移した（図2）。

以上のことから、暑熱対策としての送風により腔温が低く推移し、その結果、受胎率向上など繁殖成績の改善に寄与した可能性が考えられた。

### 今後の方針

夏場に向けて暑熱対策の実施を積極的に推進していく。

坂瀬 充洋（北部 畜産部）

（問い合わせ先 電話：079-674-1230）

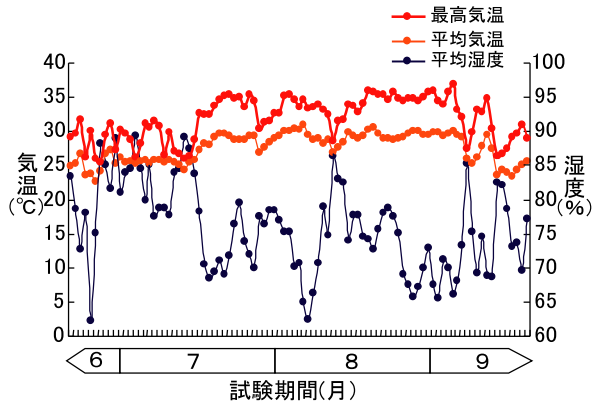


図1 試験期間中の気温と湿度の推移

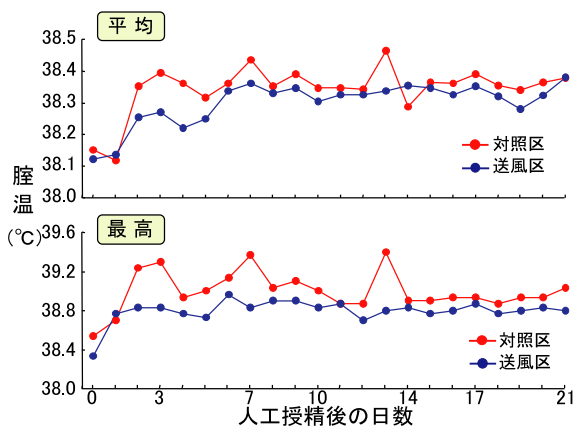


図2 腔温の推移

表 送風の有無別にみた繁殖成績

項目	対照区	送風区
頭数	11	14
AI実頭数	10	13
AI延頭数	15	13
受胎頭数	9	12
実頭数受胎率	90.0	92.3
延頭数受胎率	60.0	92.3*
妊娠率	81.8	85.7
空胎期間	110(n=9)	78†(n=12)

\*: 対照区と比較してP<0.05

†: 対照区と比較してP=0.066

AI:人工授精